
ぐだりぐだり ~ 昼ご飯で

ミンチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぐだりぐだり ～昼ご飯で

【Nコード】

N9826E

【作者名】

ミンチ

【あらすじ】

これは二人の学生が、グダグダと昼休みを過ごすお話。

午前の授業も終わり、今は昼ご飯の時間。

カズマという関西弁を話す少年と、コウジという何の特徴もない少年の二人が、校舎の屋上で仲良く喋っていた。

「やっと飯やな」

「ほんと、もうお腹ぺこぺこだよ。今日のカズマのお弁当何？」

「弁当？ コレや」

カズマは弁当のふたを開けてコウジに見せる。

「日の丸弁当か」。カズマのお母さんすごい手抜きなんだね」

「あ、これオトンの弁当やん」

「ええ！？ お父さんのお弁当そんなに寂しいの！？」

「いやな、こないだオトンが浮気しよったな」

「あゝ、それでお母さんが怒っちゃったのか」

「いや、これ作ったん妹やな」

「ええ！？ 妹さんがお父さんの浮気に怒ってるの！？」

「ちゃうちゃう。浮気とかじゃなしに、いつもこんな感じやねん」

「かわいいそうなお父さん……」

「そうか？ てかコウジの弁当どんななん？」

「僕の？ ふふふ、よくぞ聞いてくれました！ なんと今日はレンちゃんが僕のためにお弁当を作ってくれたのです！」

「レンちゃんて、こないだコウジの家に住みついたあの無愛想な幼女か？」

「うん。さてさていったい中身は何かな」

コウジは勢いよく弁当のふたを開ける。

「お前、これ……」

二人の視線の先、コウジの弁当箱の中には100円玉が一枚だけ入っていた。

「なにこれ!？」

「知らんわ！ てか、これはひどいな……」

「なんか……ごめんね。がっかりさせちゃって」

「いって、気にすんなよ」

「……………」

「……………」

カズマは沈黙に耐え切れず、自分のご飯を食べだし、コウジはそれを見つめていた。

「…おいしそうだね。白ご飯」

「ま、まあな」

「優しいんだね、カズマのお母さんは」

「なんで？」

「お弁当にちゃんと食べられる物を入れてくれてるじゃないか…」

「…んなことないって！ コウジなんか自分の好きな物選ばせてくれてるやん！ めっちゃ優しいやん！ 自由やねんで？ その100円でなんか買いに行ってきいや！」

「…ないんだよ」

「へ？」

「足りないんだ… 消費税が、コレじゃ何も買えない…」

「そ、それくらい出したるやんか！」

「ほんとに…!？」

「おう！ 友情や友情！」

そーいってカズマはポケットから財布をとりだー

「ない……」

「え？」

「財布落としてもうた……」

「いくら入ってたの？」

「1万…… 今日、帰りにゲームでも買おうと思ってや……」

「そう…… なんだ、ごめん、なぐさめの言葉がでてこない」

「いいいいいい。それよりごめんな、昼飯買えんなって」

「き、気にしないで！ ちょうど、うまい棒をいっぱい食べたかったとこなんだ！」

「やさしいねんな……」

「うん……」

「……」

「……」

ながれる沈黙。

「…もどろか」

「うん…」

そして二人は教室に帰って行った。

(後書き)

オチがなくてすみません(- ;)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9826e/>

ぐだりぐだり ~ 昼ご飯で

2010年10月17日10時02分発行